



2025年度 高校生小論文・ プレゼン動画コンテスト



自治医科大学
Jichi Medical University

応募期間 2025/3/10(月)~5/15(木)

テーマ

みんなで考えたい！未来の地域医療



入賞者を地域医療プレ体験キャンプに招待!!

応募方法

自治医科大学ホームページ内「高校生小論文・プレゼン動画コンテスト」
ページの手順に従って応募してください。

こちらから →



賞

大賞(小論文部門・プレゼン動画部門 各1名)： 図書カード10万円分
優秀賞(若干名)： 図書カード5万円分
入賞(両部門総計約20名)： 図書カード千円分
佳作(80名)： 図書カード千円分
※大賞・優秀賞は入賞者の中から選考し、表彰式にて発表します。

■問い合わせ先
自治医科大学 学事課「小論文・プレゼン動画コンテスト」係
〒329-0498 栃木県下野市薬師寺3311-1

☎ : 0285-58-7045
✉ : jichinyu@jichi.ac.jp

2025年 自治医科大学 高校生小論文・プレゼン動画コンテスト

次世代を担う高校生の皆さんと一緒に、身近な地域医療のあるべき姿を考えたいとの思いから始まった本コンテスト。入賞者を地域医療プレ体験キャンプに招待します。

【テーマ】みんなで考えたい！未来の地域医療

【応募資格】高等学校（中等教育学校の後期課程を含む）・高等専門学校（3年生まで）に在籍している生徒

【募集内容】

- ・小論文： 文字数1,200字以内の上記テーマに関する小論文。
- ・プレゼン動画： 上記テーマについてのプレゼン風景*（90秒以内）を撮影した動画。
- *プレゼン動画に使うツール（紙・タブレット端末等）は自由です。ただし、動画は発表者が最初から最後まで画面に見えた状態で撮影してください。動画の結合は認めません。アプリやソフトを使用した編集（テロップ・図・効果音の挿入等）は不可とします。（上記が守られていない場合は審査対象から除外させていただきます。）

【募集期間】

- ・2025年3月10日(月)～5月15日(木)

【応募方法】

- ・オンライン（小論文・プレゼン動画）もしくは郵送（小論文のみ）での応募を受け付けます。
- ※詳細は自治医科大学ホームページ内の「高校生小論文・プレゼン動画コンテスト」ページの手順に従って応募してください。

【注意事項】

- ・応募は、1名につき「小論文」か「プレゼン動画」のどちらか一方のみとします。またグループでの応募は認めません。
- ・応募作品は、応募者本人が日本語を用いて行った作品で未発表のものに限ります。
- ・本コンテストへの応募作品を他のコンテスト等へ重複して応募することは認めません。
- ・作品の応募にあたり、生成AI（Chat GPTなど）の使用は認めません。
- ・応募作品の中で他の著作物を引用する場合は、出典を明らかにしてください。
- ・他の著作物からの盗用（全部、一部）が確認された場合は、失格とし、所属高校にその由伝える場合があります。
- ・小論文に図表を付ける場合、2つ以内とします。図表のタイトル、参考文献一覧などは、字数に含みません。
- ・応募作品の著作権は、自治医科大学に属します。
- ・本学での地域医療プレ体験キャンプへの参加は必須となります。
- ・キャンプ参加に伴う交通費、宿泊費は大学が負担します。（交通費は、大学旅費規程に基づき、高校最寄りの公共交通機関から大学までの旅費を支給。）
- ・感染症の流行等により、代替プログラムの実施等、内容が変更となる場合がございます。

【入賞者の発表】

- ・自治医科大学ホームページで計15名程度の入賞者を発表し、本人には郵送でお知らせします。（6月下旬～7月上旬予定）
- ※入賞者の氏名・学校名・学年および作品を公表することをあらかじめご了承ください。

【表彰式・地域医療プレ体験キャンプ】

- ・2025年7月31日（木）～ 8月1日（金） 場所：自治医科大学

審査委員長



永井 良三
自治医科大学 学長

1974年 東京大学医学部卒業。医学博士。
1983年 米国バーモント大学留学。
2003年 東京大学医学部附属病院病院長。
2012年より現職。
2019年より宮内庁皇室医務主管。ヘルツ賞、日本医師会医学賞など多数受賞。



武藤 真祐
医療法人社団鉄祐会 理事長

1996年東京大学医学部卒業。
2014年INSEAD Executive MBA。東大病院、三井記念病院にて循環器内科に従事後、宮内庁で待医を務める。東京医科大学歯科大学医学部臨床教授、第2回イノベーション・オブ・ザ・イヤー、武見奨励賞受賞。

特別審査員



本田 麻由美
読売新聞東京本社 編集委員

医療情報部、社会保障部などで主に医療・介護の取材を担当し、認知症や在宅医療の企画を手がけてきた。2002年に乳がんが見つかり、治療を続けながらコラム「がんと私」を朝刊で6年間連載し、国内外の医学記事賞を受賞。国立がん研究センター理事、東大大学院非常勤講師（医療コミュニケーション学）なども務める。



町 亜聖
フリーアナウンサー/元ヤングケアラー

1995年に日本テレビにアナウンサーとして入社。その後、報道キャスター、記者としてがん医療、医療事故、難病などの医療問題や介護問題などを取材。2011年にフリーに。母の介護、母と父をがんて亡くした経験をまとめた著書「十年介護」（小学館文庫）は大きな話題を呼んだ。新刊「受援力」（法研）を出版。ラジオを中心に活動し、医療、介護問題についての執筆活動も行う。